

日本統治時代の台湾で、巨大な逆サイホンの水管を敷設し、農地を潤した日本人技師がいた。その名は「磯田謙雄」。烏山頭ダムを建設した八田與一技師と同じ金沢出身の磯田技師は、水路がある台中市新社区ではよく知られた存在で、毎年10月14日に通水記念式も行われる。だが、金沢に足跡を伝える物はほとんどなく、来年の通水80周年に向けて金沢と交流計画を進める現地関係者は、もう一人の「水利の父」の顕彰へ情報を求めている。

金沢出身、八田技師の後輩

「水利の父」もう一人

台湾で逆サイホン

9月初め、金沢(中(現泉丘高)、四高、さと偉人館に、台湾の東京帝大から台湾総督前駐日代表、許世楷氏府へと、八田技師と同じ(台中市)らを通じて地元関係者が情報提供を求めてきた。

松田章一館長が、旧制四高の卒業生名簿などを調べたところ、磯田技師は八田技師の7歳年下で、旧制金沢一

磯田謙雄

交流へ現地関係者 出身地の情報求める

に関する資料のほとんどは台湾の国立中央図書館から取り寄せた。本籍が金沢市上松原町(現尾山町)であることを示した履歴書や、帰国後に真柄組(現真柄建設)の相談役土木部長を務めたことが分かる台湾関係人名簿などは、全て台湾側の資料。金沢で磯田技師を知る人はいまだ見つからない。



磯田技師が敷設した逆サイホンの水管(緑色)と、台湾中部大地震後に新設された水管(水色) 台中市新社区(菅原天海氏提供)

八田技師の功績が台湾で脚光を浴びる中、白水圳の地元では「磯田技師のふるさとを知りたい」との機運が高まっている。金沢との橋渡しをする許氏は「台中では30代の若い世代が白水圳に関心をもち、金沢との交流を望んでいる」と話す。2008年の小松―台北便航時に金沢を訪問し、辰巳用水を兼六園から金沢城へ逆サイホンで引き込んだことを聞いたと振り返り、「兼六園の技術を台湾に持ち込んだのではなにか」と想像している。